

第 2 1 回北方領土隣接地域振興対策根室地域協議会次第

日時：平成 2 9 年 5 月 2 6 日（金）1 3 時 0 0 分～

場所：道立北方四島交流センター 2 階対話ルーム

1 開 会

2 あいさつ 北海道北方領土対策根室地域本部長 中田 克哉

3 議 事

- (1) 第 7 期振興計画の重点施策に係る実施計画の検証・評価について
- (2) 北方領土隣接地域振興対策担当課長連絡会議開催要領の改正について
- (3) 千島桜ねむろプロジェクト推進事業について

4 閉 会

【配付資料】

1 議事（1）関連

資料 1 第 7 期振興計画の重点施策に係る実施計画の検証・評価（工程）

資料 2 第 7 期振興計画の重点施策に係る実施計画（平成 2 7 年度）の検証・評価

資料 3 第 7 期振興計画の重点施策に係る実施計画（平成 2 8 年度）の検証・評価

2 議事（2）関連

資料 4 北方領土隣接地域振興担当課長連絡会議開催要領の改正について

3 議事（3）関連

資料 5 千島桜ねむろプロジェクト推進事業について

第21回北方領土隣接地域振興対策根室地域協議会委員名簿

1 委員

団 体 名	職 名	氏 名	備 考
根室市	市長	長谷川 俊 輔	
別海町	町長	曾 根 興 三	
中標津町	町長	西 村 穰	
標津町	町長	金 澤 瑛	
羅臼町	町長	湊 屋 稔	
北海道北方領土対策根室地域本部	本部長	中 田 克 哉	

2 事務局

団 体 名	職 名	氏 名	備 考
北海道北方領土対策根室地域本部	副本部長	谷 内 紀 夫	
北海道北方領土対策根室地域本部	北方領土対策室長	板 垣 臣 昭	
北海道北方領土対策根室地域本部	北方領土対策室 主幹(企画振興)	岸 洋 一	
北海道北方領土対策根室地域本部	北方領土対策室 主査(総括)	岸 鉄 也	
北海道北方領土対策根室地域本部	北方領土対策室 主査(企画)	近 藤 洋 平	

第7期振興計画の重点施策に係る実施計画の検証・評価【工程】

- 実施計画は関係予算確保に向けて活用
- 毎年度の評価結果を踏まえて、計画中間年及び計画最終年で点検（評価・検証）を実施

● 本体計画と実施計画の作成年次

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度～
本体計画		第7期計画					第8期～
実施計画	様式 1-1、1-2、様式2	・H27予算 実施ベース ・H28予算 要望ベース		・H28予算 実施ベース ・H29予算 要望ベース		H30予算 実施ベース（予定）	
	様式 3-1 実施状況			・H26実施状況	・H27実施状況	・H28実施状況	・H29実施状況

● 計画の評価・検証

【点検】 様式3-2 評価・検証	計画前期（2カ年）	計画後期（2カ年）	評価・検証の実施	必要に応じて 計画内容を修正	評価・検証の実施	第8期計画に反映

※H27年度検証・評価はH25年度実施計画未作成のため、H26実施計画のみ実施。

第7期振興計画の重点施策に係る実施計画(平成27年度)の検証・評価【概要】

1 検証・評価について

「第7期北方領土隣接地域の振興及び住民の生活の安定に関する計画の重点施策に係る実施計画」(以下「実施計画」という。)は、平成25年度から平成29年度までの5ヶ年計画となっており、その目標や達成状態を検証するため、平成27年度及び平成29年度に検証・評価を実施することとし、平成27年度には、平成26年度実施計画に係る検証・評価を実施済みである。

平成29年度については、後期2カ年(平成27年度及び平成28年度)の実施計画に係る検証・評価を行う予定だったが、次期振興計画の策定にあたり、第7期振興計画の課題を洗い出す必要があるため、時期を前倒し、平成28年度に検証・評価を実施した。

2 主な検証・評価内容

市町名	平成27年度 実施計画 重点施策名	主な検証・評価内容	
		5年後の目標に向けての 達成プロセス及び対象群の変化	目指す目標(長期目標)
根室市	1 基盤産業の付加価値向上基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> 水産資源の安定確保→貝類等の種苗放流等を要望し実施した。 地域マリンビジョン→事業計画を予定どおり実施した。 水産加工品→出荷額がH24と比較しH27は2%減少。今後もより価値の高い食品作りの強化が必要である。 	<p>当初設定の工程表については、おおむね実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水産資源の維持増大対策事業については、種苗放流等の成果が今後期待できるので、継続実施。 需要の拡大については、継続的に高付加価値化に取り組む。また、地域水産物を原料とした、学校給食用食品の開発に取り組み、市内企業での商品化を図る。
	2 新たな観光メニュー創造に向けた基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 観光施設等の整備→施設の補修・改修の実施。 情報発信の強化→外国人向けHPの整備、SNSを利用した観光PRの発信に努め、より利用しやすい形に整備していく。 野鳥観光の強化→バードランドフェスティバルの内容の充実により、参加者が前年と比較し100人増加した。 	<p>当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光入込数増については、SNSの活用、外国人向けHPを整備したことにより、アジア圏を中心に増え、H27に最高を記録している。 観光客への継続したニーズ分析を実施し、観光客誘致への取組を推進する。
	5 災害に強い地域づくりに向けた基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 避難のための情報伝達手段→情報入手として、コミュニティーFMの活用が浸透。人口カバー率がH27で86%と横ばいで推移。 災害用備蓄品の整備→事業の継続により備蓄種目が充実。今後は被害を想定し、数量の見直しを図る。 防災意識の高揚→訓練・出前講座の実施数が増加し啓発効果が高くなった。出前講座23回2,019人、総合防災訓練2,121人、地域訓練11回1,291人(H27実績) 	<p>当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域防災力の向上については、事業を継続することで、推進していく。 コミュニティーFMを活用した啓発活動は、一定の成果があり、情報入手手段の一つとして、認知度が向上している。
別海町	1 基盤産業の付加価値向上基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> 農業施設→河川環境の保全等のための用水排水施設及び畜舎排水処理施設整備を予定どおり実施し、生乳の品質向上、収益性の向上が図られた。 水産加工施設→高度加工機を1台導入。新製品の計画生産が図られた。 水産資源の維持・増大→種苗放流事業等の継続により、水産資源の維持・増大が図られた。 	<p>当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業は、施設整備の結果、収益性が向上。牛乳・乳製品の高付加価値化を図る。 水産業は、水産資源の維持増大が図られており、今後も前浜の環境保全を進めていくことで水産資源の維持増大を目指す。
	2 新たな観光メニュー創造に向けた基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 旅行会社等協力企業件数の増加→効果的な取組ができている。 ネイチャーセンターの利用者数の増加→冬期体験メニューの開発・実証を行い、ガイド利用により滞在時間の延長につながった。 イベント等への観光客入込数の増加→天候に恵まれず、観光客入込人数は増加しなかった。 	<p>当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人旅行客向けの旅行商品の企画が必要となっている。 体験型観光の推進、個人旅行のニーズに応えるため新たな体験メニューを開発し、モニターツアーを実施した。
	5 災害に強い地域づくりに向けた基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災計画の策定→H25に策定。今後は、法改正に対応し、随時更新を検討する。 津波避難施設の設置→H28に完成予定。 食料備蓄率向上→食料数2,050食(H27)。H28に2,750食追加予定。 防災無線のデジタル化等→H28は、潮位観測計及びWEBカメラの更新を予定。 	<p>当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海岸地区の防災対策推進のため、護岸整備を年次的に進める。 地域の防災力向上のため、備蓄食料の更新の継続及び防災訓練等の企画により住民の防災意識向上を目指す。

市町名	平成27年度 実施計画 重点施策名	主な検証・評価内容	
		5年後の目標に向けての 達成プロセス及び対象群の変化	目指す目標(長期目標)
中標津町	2 新たな観光メ ニュー創造に向け た基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 観光客数の増加、外国人客数の増加→新規イベントの実施やSNSを利用したPR強化、国内外のチャーター便の就航によりH25と比較し観光客数等が増加している。 修学旅行生の増加→誘致活動を実施し、一定の成果があったが、他地域と比較して交通費の割高、宿泊施設の不足など課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。 中標津空港の利用促進や教育旅行、大学研究室・ゼミ誘致活動により、観光客入込数2.9%、訪日外国人宿泊数61.7%増加など、交流人口の増加に向けた成果が出ている 航空運賃の格差や宿泊施設の不足により団体客への課題が山積している。
	4 安定した医療 体制の確保と高度 医療へのアクセス 基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> 現状医師数の確保→22人(H27)を確保し14の診療科を維持している。 診断設備の整備→整備の結果診断に要する時間が短縮された(細胞診で約5日)。今後も効果的な機器整備に努める。 ネットワーク基盤の整備→釧路根室地域医療施設情報共有システム「メディネットたんちょう」への参画で根拠地域の情報強化が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。 地域センター病院である町立中標津病院の医療体制維持に努めているが、常勤医師等の不足解消には致っていない。 地域の医療体制の補完・強化のため、遠隔病理診断システムの活用を図り、地域診断格差是正と医療の均一化が図られている。
	5 災害に強い地 域づくりに向け た基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 根室管内5市町防災基本協定の締結→各市町の情報の共有、研修等への相互派遣が実施され、防災体制が向上した。 地域防災計画の見直し→H26に策定。地域住民への理解向上のため、出前講座等を実施し継続して取り組む。 防災備蓄品等の確保→備蓄倉庫設置開始 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。 社会資本等の整備について、町有施設の計画的更新と予防的な修繕(予防保全)を平行して実施。 官民一体で実施した総合防災訓練、啓発活動により、訓練等を実施する住民組織数、参加者数が増加しており、事業の効果が現れてきている。
	6 持続可能な地 域発展の基礎とな る次世代・後継者 対策	<ul style="list-style-type: none"> 移住定住の促進→「お試し暮らし」事業を開始し、H27は83人が利用している。 新規就農者数の増加→首都圏でのPR活動、就農時負担軽減のための支援事業、農協のサポートにより、一定の新規就労者数を確保できている。 将来の後継者育成→支援ボランティアと連携し、中学生の就業体験等を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。 新規就農者支援、雇用創出事業により地域の活性化に努めている。 住民ニーズにそった子育て・保育支援体制の充実に取り組んでいる
標津町	1 基盤産業の付 加価値向上基盤の 整備(水産業)	<ul style="list-style-type: none"> ホタテの地場種苗増産体制の確立及び水揚げ量の増加→育成カゴの整備により見込みどおりの成果が期待できる。なお、水揚げ量に反映するのはH30頃 ホタテ流通量等の増加→地場品の販売促進担当職員の配置。ブランド化による販売促進にも努めている。 ナマコ種苗放流試験→15万匹の稚ナマコを放流し(H27)、資源の拡大が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。 稚貝の放流数は増大している一方で、稚貝のサイズについては、サイズアップには至らず、今後の課題である 高度衛生管理システムにより生産される標津産ホタテ製品の高付加価値化を推進。
	2 新たな観光メ ニュー創造に向け た基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 標津サーモン科学館の整備・改修→計画どおり改修を実施し、安全で快適な施設となっている。 観光施設でのイベントの開催・展示内容の見直し→サーモン科学館ではチョウザメの行動展示、ポー川史跡自然公園では企画展等で、施設の魅力を発信できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。 標津サーモン科学館、ポー川史跡自然公園の整備がH29で完了する見込みのため、H30をめどに、地域資源の価値を高める事業を進める。 今後もタイムリーに、来客者のニーズを把握し、また来たいと思わせる魅力づくりを推進する。
	5 災害に強い地 域づくりに向け た基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練への参加者数(率)の向上→定期的な防災訓練、広報誌による啓発で、町内会による訓練が実施されるなど、防災意識の高揚が図られている。 緊急避難場所の確保→民宿と町が避難所協定を締結し防災対策強化が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。 継続的な啓発活動や避難所等の防災環境の整備により、地域住民の防災意識の高揚、効果的な防災対策が推進されている。
6 持続可能な地 域発展の基礎とな る次世代・後継者 対策	<ul style="list-style-type: none"> 女性を含めた青年リーダー育成→定期的に集まり情報交換や先進事例の視察等を行うことで、結束力が強くなってきている。 ICT教育の整備→デジタル教科書の導入、タブレット端末の導入で、児童に貴重な体験、教育の機会を提供できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。 各年代の教育で愛郷心を育成、住まいの確保等を行うことで、人口減少の抑制または、増加につながる。 地域住民を活用した教育活動を展開することで、ICT教育の推進、人材育成の基盤づくりが推進されている。 	

市町名	平成27年度 実施計画 重点施策名	主な検証・評価内容	
		5年後の目標に向けての 達成プロセス及び対象群の変化	目指す目標(長期目標)
羅臼町	1 基幹産業の付加価値向上に向けた基盤の整備(水産)	<ul style="list-style-type: none"> ・水産資源増大対策のための有害生物駆除、種苗放流→自然災害により水揚量が減少している種類もあるが、事業を継続して行うことで生産の安定が図られている。 ・水産物の道外への販売促進→首都圏での継続的なPR活動の実施。H27から「ふるさと納税返礼品制度」を導入し、販路拡大・消費拡大につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、おおむね予定どおり実施。 ・水産資源増大対策については、事業を継続的に行うことで、水産資源の生産量が増加した。 ・水産物の需要拡大のため、PR活動を実施し、H27からは、ふるさと納税返礼品制度を導入し販路・需要の拡大に繋げた ・知床らうす深層水については、販売PRを行い販路拡大を図った。
	2 新たな観光メニュー創造に向けた基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の強化→HPの更新により閲覧数が168,237人(H24)から384,000人(H27)に増加。フェイスブックの「いいね」の数が増加している。今後も随時発信し、観光客入込数の増加を図る。 ・修学旅行誘致→近年来町する学校数は横ばいだが、問い合わせ数は増加傾向にある。H27においても継続的に誘致活動を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、おおむね予定どおり実施。 ・HPの更新等や首都圏でのPR活動により、観光客入込数が増加した。 ・修学旅行誘致活動や体験型観光の充実により、観光客入込数の増加を図る。
	4 安定した医療体制の確保と高度医療へのアクセス基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師の確保→東京・九州の医療機関に訪問し募集を行い2名採用し看護師14名体制になった。H28も募集を行い、安定的な確保を行う。 ・看護職の職場体験の実施→中高生を対象に実施。参加者9名から2名の進学となった。H28においても実施し、看護師の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、おおむね予定どおり実施。 ・道外の医療機関を訪問し、看護師2名を採用した。 ・医療機器の更新等の実施により、持続可能な地域医療体制が確保され、医療の安定的提供が可能になった。 ・高齢者の健康維持増進や重篤化予防を図るため、在宅・訪問サービス(歯科医療)の提供を行う。
	5 災害に強い地域づくりに向けた基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の設立→17町内会のうち14町内会(82%)での設立となっている。H28も必要性を呼び掛け全町内会での設立を目指す。 ・食料防災備蓄数の確保→H29から賞味期限が切れることから、更新及び備蓄内容の見直しを実施。 ・避難困窮地域の避難階段確保→今後検討を実施し、関係機関と調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、津波避難所の確保以外は、おおむね予定どおりに実施。 ・情報伝達手段の更新、多様化の実施。 ・防災訓練を継続的に実施することで防災意識が高まっている。(訓練には全町民の4人に1人が参加) ・避難場所を確保するため、関係機関等と協議を行う。

第7期振興計画の重点施策に係る実施計画(平成28年度)の検証・評価【概要】

1 検証・評価について

「第7期北方領土隣接地域の振興及び住民の生活の安定に関する計画の重点施策に係る実施計画」(以下「実施計画」という。)は、平成25年度から平成29年度までの5ヶ年計画となっており、その目標や達成状態を検証するため、平成27年度及び平成29年度に検証・評価を実施することとし、平成27年度には、平成26年度実施計画に係る検証・評価を実施済みである。

平成29年度については、後期2カ年(平成27年度及び平成28年度)の実施計画に係る検証・評価を行う予定だったが、次期振興計画の策定にあたり、第7期振興計画の課題を洗い出す必要があるため、時期を前倒し、平成28年度に検証・評価を実施した。

2 主な検証・評価内容

市町名	平成28年度 実施計画 重点施策名	主な検証・評価内容	
		5年後の目標に向けての 達成プロセス及び対象群の変化	目指す目標(長期目標)
根室市	1 基盤産業の付加価値向上基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・水産資源の安定確保→貝類等の種苗放流等を要望し実施した。 ・地域マリンビジョン→事業計画を予定どおり実施した。 ・水産加工品→出荷額がH24と比較し2%減少。今後もより価値の高い食品づくりの強化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、一部実施。 ・水産資源の維持増大対策事業については、種苗放流等の成果が、今後期待できるので継続実施。 ・需要の拡大については、継続的に高付加価値化に取り組む。また、地域水産物を原料とした、学校給食用食品の開発に取組み、市内企業での商品化を図る。
	2 新たな観光メニュー創造に向けた基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・観光施設等の整備→施設の補修・改修の実施。 ・情報発信の強化→外国人向けHPの整備。SNSを利用した観光PRの発信に努め、より利用しやすい形に整備していく。 ・野鳥観光の強化→バードランドフェスティバルの内容の充実により、参加者が前年と比較し300人増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。 ・観光客入込数増については、SNSの活用、外国人向けHPを整備したことにより、アジア圏を中心に増え、H27に過去最高を記録している。 ・観光客への継続したニーズ分析を実施し、観光客誘致への取組を推進する。
	5 災害に強い地域づくりに向けた基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・避難のための情報伝達手段→情報入手として、コミュニティFMの活用が浸透。人口カバー率がH28で86%と横ばいで推移。 ・災害用備蓄品の整備→事業の継続により備蓄種目が充実。今後は被害を想定して、数量の見直しを図る。 ・防災意識の高揚→訓練・出前講座の実施数が増加し啓発効果が高くなった。出前講座30回2,015人、総合防災訓練2,350人、地域訓練9回1,198人(H28実績) 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。 ・地域防災力の向上については、事業を継続することで、推進していく。 ・コミュニティFMを活用した啓発活動は、一定の成果があり、情報入手手段の一つとして、認知度が向上している。
別海町	1 基盤産業の付加価値向上基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・農業施設→河川環境の保全等のための用水排水施設及び畜舎排水処理施設整備を予定どおり実施し、生乳の品質向上、収益性の向上が図られた。 ・水産加工施設→高度加工機を2台導入。新製品の計画生産が図られた。 ・水産資源の維持・増大→種苗育成・放流事業の継続により、水産資源の維持・増大が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。 ・農業は、施設整備の結果、収益性が向上。牛乳・乳製品の高付加価値化を図る。 ・水産業は、水産資源の維持増大が図られており、今後も前浜の環境保全を進めていくことで水産資源の維持増大を目指す。
	2 新たな観光メニュー創造に向けた基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・観光情報の強化→パンフレットに加え、HP及びSNSを利用したことで情報発信が強化された。 ・ネイチャーセンターの利用者数の増加→冬期体験メニューの開発により、ガイドツアーの利用につながっている。 ・イベント等への観光客入込数の増加→イベントによる一定の集客はできた。今後はイベントに依存しない集客の検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。 ・個人旅行者向けの旅行商品の企画が必要となっている。 ・観光資源として一次産業を商品化する事業に取り組むことができた。
	5 災害に強い地域づくりに向けた基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災計画の策定→H25に策定。今後は法改正に対応し、随時更新を検討する。 ・津波避難施設の設置→H28に完成 ・食料備蓄率向上→4,800食(H28)。H29に1,250食追加 ・防災無線のデジタル化等→H33までに更新を行う。H29は、WEBカメラを新規設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、おおむね予定どおりに実施。 ・海岸地区の防災対策推進のため、護岸整備を年次的に進める。 ・地域の防災力向上のため、備蓄食料の更新の継続及び防災訓練等の企画により住民の防災意識向上を目指す。

市町名	平成28年度 実施計画 重点施策名	主な検証・評価内容	
		5年後の目標に向けての 達成プロセス及び対象群の変化	目指す目標(長期目標)
中標津町	2 新たな観光メ ニュー創造に向け た基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 観光客数の増加、外国人客数の増加→ロングトレイルなどを活用したイベントの実施やSNSを利用したPR強化、国内チャーター便の継続就航によりH25と比較し観光客数等が増加している。 修学旅行生の増加→首都圏・関西圏へプロモーションを実施し、一定の成果があったが、他地域と比較して交通費の割高、宿泊施設の不足など課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表について、おおむね予定どおりに実施。 中標津空港の利用促進など継続事業の他に、H29以降、海外からの教育旅行受入に向けた、新たな事業の展開を予定している。 依然として航空運賃の格差や宿泊施設の不足により団体客への課題が山積している。
	4 安定した医療 体制の確保と高度 医療へのアクセス 基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> 現状医師数の確保→22人(H27)を確保し14の診療科を維持している。 診断設備の整備→整備の結果診断に要する時間が短縮された(細胞診で約5日)。今後も効果的な機器整備に努める。 ネットワーク基盤の整備→釧路根室地域医療施設情報共有システム「メディネットたんちょう」への参画で根釧地域の情報強化が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおり実施。 地域センター病院である町立中標津病院の医療体制維持に努めているが、常勤医師等の不足解消には致っていない。 地域の医療体制の補完・強化のため、遠隔病理診断システムを活用することにより、地域診断格差は正と医療の均一化が図られている。
	5 災害に強い地 域づくりに向け た基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 根室管内5市町防災基本協定の締結→各市町の情報の共有、研修等への相互派遣が実施され、防災体制が向上した。 地域防災計画の見直し→H26に策定。地域住民への理解向上のため、出前講座等を実施し、継続して取り組む。 防災備蓄品等の確保→H27より備蓄倉庫の設置開始。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおり実施。 社会資本等の整備について、町有施設の計画的更新と予防的な修繕(予防保全)を平行して実施。 防災教育の推進や実践的な防災訓練により、住民の防災知識及び意識向上を図る。
6 持続可能な地 域発展の基礎とな る次世代・後継者 対策	<ul style="list-style-type: none"> 移住定住の促進→「お試しくらし」事業を開始し、H27は83人が利用している。 新規就農者数の増加→首都圏でのPR活動、就農時負担軽減のための支援事業、農協のサポートにより、一定の新規就労者数を確保できている。 将来の後継者育成→支援ボランティアと連携し、中学生の就業体験等を実施している。就業体験以外のキャリア教育を検討しつつ、継続実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表についてはおおむね予定どおり実施。 新規就農者支援、雇用創出事業により地域の活性化に努めている。 住民ニーズにそった子育て・保育支援体制の充実に取り組んでいる。 	
標津町	1 基盤産業の付 加価値向上基盤の 整備(水産業)	<ul style="list-style-type: none"> ホタテの地場種苗増産体制の確立及び水揚げ量の増加→育成カゴの整備により見込みどおりの成果が期待できる。なお、水揚げ量に反映するのはH30頃 ホタテ流通量等の増加→地場品の販売促進担当職員の配置。ブランド化による販売促進にも努めている。 ナマコ種苗放流試験→15万匹の稚ナマコを放流し(H28)、資源の拡大が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおり実施。 稚貝の放流数は増大している一方で、稚貝のサイズについては、サイズアップには至らず、今後の課題である 高度衛生管理システムにより生産される標津産ホタテ製品の高付加価値化を推進。 ナマコ種苗放流事業は、H26より実施し、資源の増大が図られている。
	2 新たな観光メ ニュー創造に向け た基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 標津サーモン科学館及びポー川史跡自然公園の整備・改修→計画どおり改修を実施し、安全で快適な施設となっている。 観光施設でのイベントの開催・展示内容の見直し→サーモン科学館のチョウザメ人気が高く行動展示効果が表れている。ポー川史跡自然公園では、しべつ縄文祭りに350人の参加があり、利用者の増加につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおり実施。 標津サーモン科学館、ポー川史跡自然公園の整備がH29で完了するため、H30をめぐり、地域資源を高める事業を進める。 今後もタイムリーに、来客者のニーズを把握し、また来たいと思わせる魅力づくりを推進する。
	5 災害に強い地 域づくりに向け た基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練への参加者数(率)の向上→定期的な防災訓練、広報誌による啓発で、町内会による訓練が実施されるなど、防災意識の高揚が図られている。 緊急避難場所の確保→民宿と町が避難所協定を締結し防災対策強化が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおり実施。 継続的な啓発活動や避難所等の防災環境の整備により、地域住民の防災意識の高揚、効果的な防災対策が推進されている。
	6 持続可能な地 域発展の基礎とな る次世代・後継者 対策	<ul style="list-style-type: none"> 女性を含めた青年リーダー育成→これまでで得た結束力、人脈等を生かし、スポーツ講演会・教室を自ら運営するなど、人材育成が推進されている。 ICT教育の整備→デジタル教科書の導入、H28には、生徒用のタブレット端末、学習支援ソフトの導入で、効率的な事業展開が図られ、児童に貴重な体験、教育の機会を提供できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初設定の工程表については、おおむね予定どおり実施。 各年代の教育で愛郷心を育成、住まいの確保等を行うことで、人口減少の抑制または、増加につながる。 地域住民を活用した教育活動を展開することで、ICT教育の推進、人材育成の基盤づくりが推進されている。

市町名	平成28年度 実施計画 重点施策名	主な検証・評価内容	
		5年後の目標に向けての 達成プロセス及び対象群の変化	目指す目標(長期目標)
羅臼町	1 基幹産業の付加価値向上に向けた基盤の整備(水産)	<ul style="list-style-type: none"> ・水産資源増大対策のための有害生物駆除、種苗放流→自然災害により水揚量が減少している種類もあるが、事業を継続して行うことで生産の安定が図られている。 ・水産物の道外への販売促進→首都圏での継続的なPR活動の実施。H27から「ふるさと納税返礼品制度」を導入し、販路拡大・消費拡大につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、おおむね予定どおり実施。 ・水産資源増大対策については、事業を継続的に行うことで、水産資源の生産量が増加した。 ・水産物の需要拡大のため、PR活動を実施し、H27からは、ふるさと納税返礼品制度を導入し販路・需要の拡大に繋がった。 ・知床らうす深層水については、販売PRを行い販路拡大を図った。
	2 新たな観光メニュー創造に向けた基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の強化→HPの更新により閲覧数が168,237人(H24)から456,000人(H28)に増加。フェイスブックの「いいね」の数が増加している。今後も随時発信し、観光客入込数の増加を図る。 ・修学旅行誘致→近年来町する学校数は横ばいだが、問い合わせ数は増加傾向にある。H28においても継続的に誘致活動を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、おおむね予定どおり実施。 ・HPの更新等や首都圏でのPR活動により、観光客入込数は増加傾向にある。(H28は、台風の影響で減少する予定) ・修学旅行誘致活動や体験型観光の充実により観光客入込数の増加を図る。
	4 安定した医療体制の確保と高度医療へのアクセス基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師の確保→H28は申込者がいなかったが、移住体験モニター(看護師職)に1名の受入を行った。移住とはならなかったが、H29も道内外からの受入を行う。 ・看護職の職場体験の実施→中高生を対象に実施。参加者9名から3名の進学となった。H29においても実施し、看護師の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、おおむね予定どおり実施。 ・医療機器の更新等を実施し、持続可能な地域医療体制が確保され、医療の安定的提供が可能になった。 ・高齢者の健康維持増進や重篤化予防を図るため、在宅・訪問サービス(歯科医療)の提供を行う。
	5 災害に強い地域づくりに向けた基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の設立→17町内会のうち14町内会(82%)での設立となっている。H29も必要性を呼び掛け全町内会での設立を目指す。 ・食料防災備蓄数の確保→H29から更新及び備蓄内容の見直しを実施。 ・避難困窮地域の避難階段確保→今後検討を実施し、関係機関と調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設定の工程表については、津波避難所の確保以外は、おおむね予定どおり実施。 ・情報伝達手段の更新、多様化の実施。 ・防災訓練を継続的に実施することで、防災意識が高まっている。(訓練には全町民の4人に1人が参加) ・避難場所を確保するため、関係機関等と協議を行う。

北方領土隣接地域振興対策担当課長連絡会議開催要領（案）

第1 目的

北方領土隣接地域における地域振興対策等に関し、道及び根室管内市町が行う施策について、情報共有、連絡調整を行うため、「北方領土隣接地域振興対策担当課長連絡会議」（以下「連絡会議」という。）を開催する。

第2 議題

連絡会議の議題は、次のとおりとする。

- (1) 「北方領土隣接地域の振興及び住民の生活の安定に関する計画」（以下「振興計画」という。）に関する事。
- (2) 振興計画に基づく、「振興計画の重点施策に係る実施計画」に関する事。
- (3) 北方領土隣接地域振興対策に関する事。
- (4) その他北方領土対策に関し、必要と認める事項に関する事。

第3 構成

連絡会議は、次の機関の担当課長、室長及び主幹により構成する。

- (1) 北海道北方領土対策根室地域本部
- (2) 根室市総合政策部北方領土対策室
- (3) 別海町総務部総合政策課
- (4) 中標津町総務部企画課
- (5) 標津町企画政策課
- (6) 羅臼町企画振興課

第4 会議の開催

- (1) 連絡会議に座長を置き、北海道北方領土対策根室地域本部主幹をもって充てる。ただし、座長に事故があるときは、あらかじめ座長が指定した者が職務を代理する。
- (2) 連絡会議は、座長が招集する。
- (3) 連絡会議は、必要に応じて構成員以外の者を出席させることができる。
- (4) 連絡会議は、座長が期限を指定し、書面により開催することができる。

第5 その他

連絡会議の事務は、北海道北方領土対策根室地域本部において行う。

- 2 この要領に定めるもののほか、連絡会議の運営に関し必要な事項は、北海道北方領土対策根室地域本部長が定める。

附則

この要領は、平成 28 年 4 月 21 日から施行する。

この要領は、平成 29 年 月 日から施行する。

北方領土隣接地域振興対策担当課長連絡会議開催要領新旧対照表

改正後	現 行	備 考
<p>第3 構成</p> <p>連絡会議は、次の機関の<u>担当課長、室長及び主幹</u>により構成する。</p> <p>(1) 北海道北方領土対策根室地域本部</p> <p>(2) 根室市<u>総合政策部北方領土対策室</u></p> <p>(3) 別海町総務部総合政策課</p> <p>(4) 中標津町総務部企画課</p> <p>(5) 標津町企画政策課</p> <p>(6) 羅臼町企画振興課</p>	<p>第3 構成</p> <p>連絡会議は、次の機関の<u>担当課長及び主幹</u>により構成する。</p> <p>(1) 北海道北方領土対策根室地域本部</p> <p>(2) 根室市<u>総務部北方領土対策課</u></p> <p>(3) 別海町総務部総合政策課</p> <p>(4) 中標津町総務部企画課</p> <p>(5) 標津町企画政策課</p> <p>(6) 羅臼町企画振興課</p>	<p>根室市の機構改正を反映。</p>
<p>附則</p> <p>この要領は、平成28年4月21日から施行する。</p> <p>この要領は、平成29年 月 日から施行する。</p>	<p>附則</p> <p>この要領は、平成28年4月21日から施行する。</p>	

千島桜ねむろプロジェクト推進事業について

1 事業の目的

元島民の高齢化による北方領土返還要求運動の衰退が懸念される中、「千島桜」マークを使った啓発活動と「ねむろ」管内の食を活かした取組を連動させることにより、食を通じて広い世代に返還要求運動の訴求を図るとともに、次世代が継続的に取り組めるよう地域の経済環境の改善・安定を図る。

2 平成28年度の実施結果

北方領土対策本部作成のリーフレット「まるごと美味しい！ねむろ」掲載業者を中心に、商品への「千島桜」シールの添付・商品提供などを協力依頼し、各種イベントで商品PRを実施した。

(1) 「根室&釧路いいところフェア」での千島桜マークの啓発

大地みらい信用金庫に協力依頼を行い、「千島桜マーク」シールを貼付した商品の物販を実施した。

※平成27年度

大地みらい信用金庫札幌支店のオープニングイベントにおいて、振興局のブースを設置し、署名活動、商品PRを実施。

(2) 「北海道倶楽部」との連携

① 「北海道産直フェア」での啓発・PR

平成28年9月29日～10月2日（代々木公園）に、北海道倶楽部ブースにおいて、署名活動、商品PRを実施した。

（はばまい昆布しょうゆ（歯舞漁協）、こんぶしお（汐彩）の無償配布）

② 「北海道倶楽部交流イベント」への出展

平成28年10月25日（東京都港区：明治記念館）で、「ねむろ」管内の企業商品の試食や無償配布などを通じてPRを実施した。

③ 「北海道倶楽部広報誌NOW」の掲載等

NOWでのPRや冊子「北海道の市と町をご紹介」の作成・配布（北海道倶楽部発行）、また当事業を説明した記事を掲載した。

(3) 首都圏企業等への北方領土学習会

平成28年9月27日に東京在住の企業担当者、官公庁職員（約70名）に対して講演、署名活動、商品PRを実施した。

3 平成29年度の実施取組（案）

「ねむろ」管内の協力企業の発掘・商品PRを継続するとともに、北海道倶楽部との連携のもと、首都圏等へPRする取組を展開する。

(1) 「北海道倶楽部交流イベント」への出展

(2) 北海道倶楽部会員等首都圏への管内企業・商品PR

(3) 「千島桜ねむろマルシェ」掲載企業の拡大と企業・商品の取材レポートを同マルシェ内で紹介

(4) ふるさと納税の返礼品時における千島桜マークを用いた啓発の検討

【協賛企業】 19社

市町	業者名	主な商品
根室市 (5)	兼由	さんまの旨煮
	歯舞漁業協同組合	はぼまい昆布しょうゆ
	北海道日の出食品	パリパリ焼き昆布
	汐彩	魚醬あたりめ、さんま魚醬
	明郷 伊藤☆牧場	みるくシフォン
別海町 (3)	べつかい乳業興社	べつかいの牛乳屋さん、 べつかいの甘酒ハニーミルク
	郊楽苑	ショートチーズ
	牛蔵ふぁーむながの	潮彩牛のこだわりハンバーグ
中標津町 (5)	中標津町農業協同組合	ケフィアオーレ
	F l a n d e r s	フランダースロール ドゥブルスティックチーズケーキ
	ハイブランドファーム合同会社 エコランド山菜工房	特選 極太行者一本漬
	中標津地方魚菜	めんめの湯煮セット
	ラ・レトリなかしべつ	のむヨーグルト
標津町 (2)	知床標津マル食品	手火山造り鮭ぶし華ふぶき
	マ印神内商店	鮭とチーズのミルフィーユ
羅臼町 (4)	羅臼漁業協同組合	羅臼昆布
	のりとも朝倉商店	鮭節 削りぶし
	丸大あべ商店	らうすDEとろろ
	ケミクル	こんブッセ